

【 津 久 見 市 】

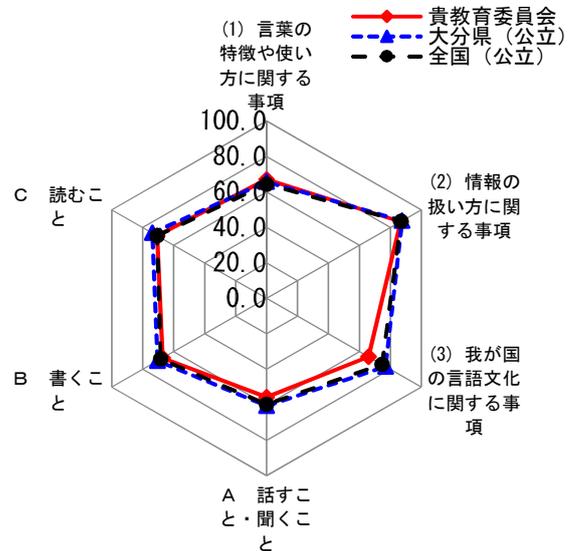
令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

			津久見市	大分県	全国
全体			67	69	67.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方	67.1	65.7	64.4
		情報の扱い方	86.6	87.6	86.9
		我が国の言語文化	65.9	76.9	74.6
	思考力・判断力・表現力等	A話すこと・聞くこと	55.7	60.6	59.8
		B書くこと	67.1	70.4	68.4
		C読むこと	70.7	73.8	70.7
評価の観点	知識・技能		70.1	71.2	69.8
	思考・判断・表現		64.2	68	66

小学校：国語

- 全体の平均正答率は全国・県の数値を下回っている。
- 評価の観点「知識・技能」は全国を上回っているが、「思考・判断・表現」になると全国・県の数値を下回っている。問題別にみても「思考・判断・表現」に関する問題に、全国の数値との差が5ポイント以上下回っているものが多い。
- 無解答率は全国・県に比べて低い傾向にある。また、短答式・記述式に関する問題形式において、全国・県の数値を上回っている。



2 具体的な改善方策

小学校：国語

- 様々な文章や資料を理解・評価しながら読む力を高めること
 - ・文章中から根拠となる叙述を抜き出したり、資料を使った説明が適切かどうか根拠を示して判断したりする（批判的に読む）機会を設定する。
- 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること
 - ・自分の経験や心情を書くだけでなく、目的や意図を明確にして自分なりの考えを述べたり、論理的・説明的な文章に対する自分なりの意見を書いたりするなどの機会を意図的に設定する。
- 主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成
 - ・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。
 - ・1時間の中で自己決定の時間の確保をする。
 - ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じ取れるように振り返りの設定をする。

【 津 久 見 市 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

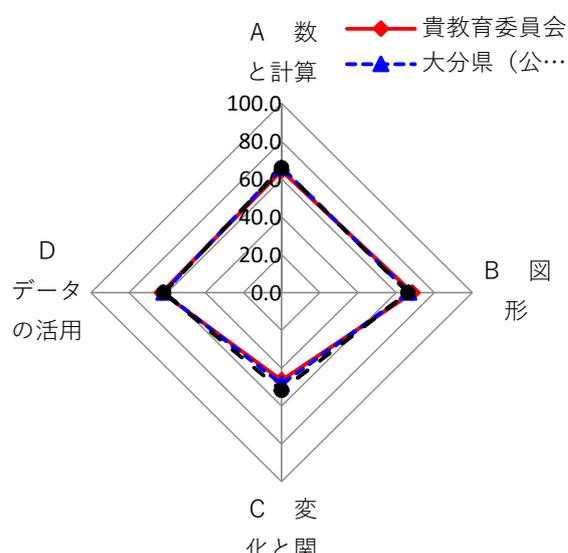
		津久見市	大分県	全国
全体		63	63	63.4
学指導要領の領域	A 数と計算	64.4	66	66
	B 図形	68.6	66.8	66.3
	C 変化と関係	46.3	48.3	51.7
	D データの活用	62.8	61.9	61.8
評価の観点	知識・技能	74.5	72.5	72.8
	思考・判断・表現	48.3	50.7	51.4

小学校：算数

○「図形」「データの活用」に関わる問題の正答率は全国を上回っている。特に、「知識・技能」に関わる問題では全国より5ポイント以上上回っている。「変化と関係（速さ）」に関わる問題の正答率は全国より低い。

●言葉や数を用いて記述する問題の正答率が低い。また、これらの問題に関する無解答率については全国・県より数値が高い。

○評価の観点「知識・技能」は全国・県を上回っており、4年続けてよい結果が出ている。「思考・判断・表現」においては全国・県を下回った。



2 具体的な改善方策

小学校：算数

○多様な資料に対応した読む力・資料を評価しながら読む（批判的に読む）力を育成すること

・同じような形式の資料のみを取り上げるのではなく、グラフや表なども含めた多様な資料との出会いを意図的に設定する。グラフや表を使った説明が適切かどうか根拠を示して判断する機会を設定する。

○「変化と関係（速さ）」についての意味や表し方を理解し、数値の妥当性を判断できるようにすること

・2つの数量の関係に着目し、速さについての意味や表し方について理解を深める。また、日常生活の問題場面に照らし合わせて、単位量当たりの大きさや割合の妥当性を判断できるようにする。

○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。

・1時間の中で自己決定の時間の確保をする。

・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じ取れるように振り返りの設定をする。

【 津 久 見 市 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校・国語）

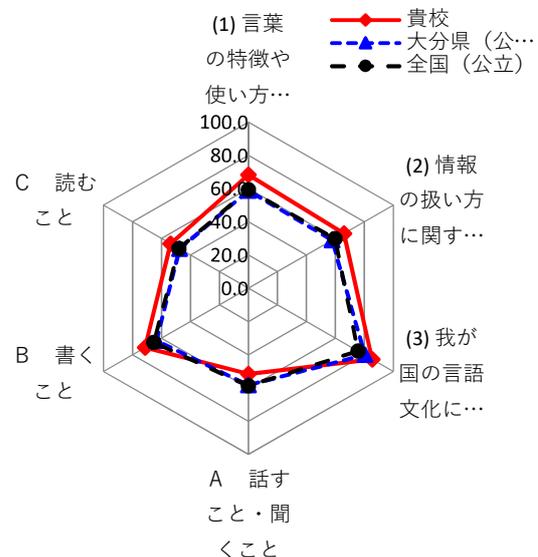
1 調査結果の分析			津久見市	大分県	全国
全体			62	58	58.1
学習指導要領 の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方	68.3	58.8	59.2
		情報の扱い方	65.9	57.8	59.6
		言語文化	85.4	80.3	75.6
	思考力・判断 力・表現力等	A話すこと・聞くこと	51.6	58.3	58.8
		B書くこと	71.3	63.4	65.3
		C読むこと	53.7	47.5	47.9
評価の観点	知識・技能		70.3	62.1	62
	思考・判断・表現		56.9	54.6	55.4

中学校：国語

○全体の平均正答率は全国や県を上回ることができた。評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに全国と県を上回ることができた。

○昨年度の課題であった「C読むこと」については改善が見られた。

●「A話すこと・聞くこと」について、全国と比べ5ポイント以上下回った。全国と比べて正答率に差があった問題は、「資料を用いて、自分の考えを分かりやすく伝えるように話すことができるか」であった。



2 具体的な改善方策

中学校：国語

○単元で付けたい力を明確にする【読むこと】

・昨年度から引き続き、他者の考えと比較して共通点や相違点を明らかにしたり、一人一人の捉え方の違いやその理由などについて考えたりする学習活動を単元計画を通して設定していく。

○文章中から、考えの根拠を見だし、自分の考えを述べる機会を充実すること

・自分の経験や心情を書くだけでなく、目的や意図を明確にして自分なりの考えを述べる機会を意図的に設定する。

○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

- ・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。
- ・1時間の中で自己決定の時間の確保をする。
- ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じ取れるように振り返りの設定をする。

【 津 久 見 市 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校・数学）

1 調査結果の分析

		津久見市	大分県	全国
全体		55	50	52.5
学指導要領の領域	数と式	52.2	49.4	51.1
	図形	40.2	36.5	40.3
	関数	65.5	59.5	60.7
	データの活用	57.9	52.8	55.5
評価の観点	知識・技能	64.5	61	63.1
	思考・判断・表現	33.2	27	29.3

中学校：数学

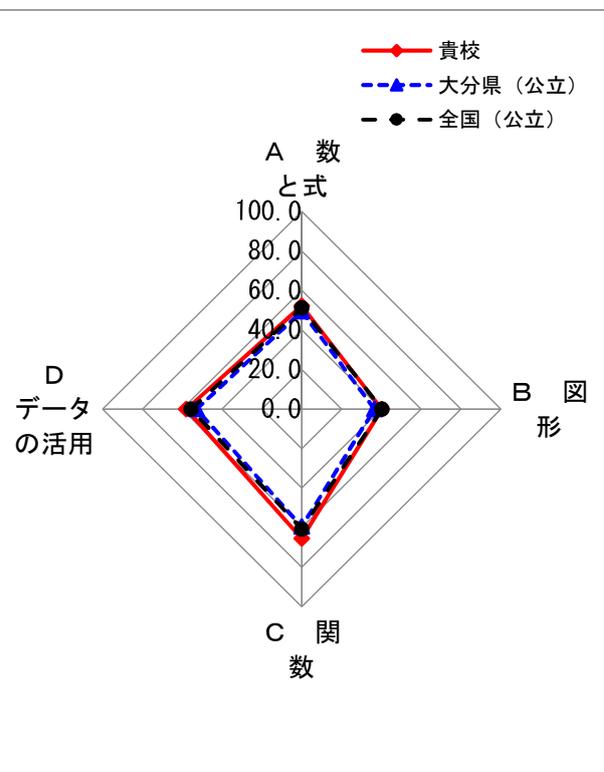
○全体正答率は昨年度に引き続き、全国と県を上回ることができている。

○領域別正答率において、昨年度同様、「図形」以外の項目で全国を上回り、県よりは全ての項目で上回っている。「図形」に関しては昨年度に比べ、全国との開きは小さくなった。

○評価の観点においても、昨年度同様、全国・県を上回ることができた。

●「式やグラフを用いて説明する問題」「三角形の合同を基に説明する問題」の正答率が25.6%と低かった。

●正答率が高い問題は、無解答率も高くなっており、学力の二極化が見られる。



2 具体的な改善方策

中学校：数学

○グラフや表に基づいて自分の考えを高めること

・グラフを使った説明が適切かどうか根拠を示して判断する機会や、グラフや表で示されている内容を自分なりの言葉で説明する機会を設定する。

○主体的に学びに向かう力の育成を意識した評価計画の作成

- ・単元を通して観点「主体的に学習に取り組む態度」を効果的に位置づける。
- ・1時間の中で自己決定の時間の確保をする。
- ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じ取れるように振り返りの設定をする。

【 津 久 見 市 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問調査）

調査結果の概要

児童質問調査

○国語・算数の書く問題について、「途中であきらめた」「全く解答しなかった」など否定的に回答した児童の割合が全国に比べ低かった。「主体的に学習に取り組む態度」の一つの側面でもある「粘り強い取組を行おうとする側面」において課題があると言える。

○昨年度まで授業時における ICT 機器活用について課題があるとされていたが、今年度は ICT に関する項目のほとんどで全国の値を超えていた。改善されたと判断できるが、今後も引き続き指導の工夫等が必要である。

○「理科の授業は好きですか」「理科の授業において理科に疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがありますか」「理科の授業では自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」など理科に関する項目すべてが全国の値に比べ低い。

生徒質問調査

○「目的に応じて必要な情報を読み取ること」の項目が全国の値より低い。また、「自分の考えを話の組立てを工夫する」の項目については全国と比べて10ポイント以上低い。

○「授業で学んだことを他の学習で生かしているか」の質問に対して、昨年度は 57.8%で全国との差が大きかったが、今年度は 76.7%になり全国との差がなくなってきた。

○ICT活用について、昨年度は「ほぼ毎日」と答える生徒が 8.9%であったが今年度は19.8%と改善されてきた。「週3回以上」となると 59.3%の回答となる。効果的な使用であることが前提であるので、この結果を丁寧に見ていきたい。

2 津久見市の児童・生徒質問調査の調査結果をふまえて

- ◇「読むこと」「説明すること」「書くこと」「話すこと」を含めた読解力の向上
 - ・多様な資料に出合わせ、資料を評価しながら読む（批判的に読む）ことの機会の設定
 - ・目的や意図を明確にして自分の考えを述べたり、書いたりする機会の設定
- ◇学びに向かう力の育成
 - ・観点「主体的に学習に取り組む態度」の効果的な評価計画への位置づけ
 - ・生徒指導の3機能（自己決定の場）を意識した授業づくり
 - ・授業者自身や子ども自身が振り返りの必要性を感じることでできる振り返りの設定
 - ・日常生活との関連を通して理解を深め、有用性を感じさせる授業づくり
- ◇個別最適な学びが保障された指導の充実
 - ・ICT 機器の効果的な活用
- ◇家庭・地域との課題の共有、改善策の検討
 - ・課題に対して当事者意識を持てるような会議内容を設定する。

【 津 久 見 市 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問）

I 調査結果の概要

小学校：学校質問

- 「授業中の私語が少なく落ち着いているか」に対して全ての学校が肯定的な回答をしている。学習環境や学習規律、児童の情報交換等について、各小学校で組織的な取組が進んでおり、調査対象学年のみならず全体的に落ち着いている。
- 「話の組立てなどを工夫して」「筋道を立てて」など説明すること・書くことに関する質問では肯定的な回答が低く、児童質問と同様の質問でも肯定的な回答が低い。→説明すること・書くこと等を含めた読解力向上に向けた授業改善が必要である。
- 児童質問において危惧される「家庭学習」は、課題の出し方等について職員間で共通理解を図り、教員の指導改善や児童の学習改善につなげている。「生活習慣」は、児童だけでなく保護者とも連携をとりながら取組を行っていく必要がある。

中学校：学校質問

- 教職員の協働性や同僚性に関する項目では肯定的な回答が高い。これは、職場の心理的安全性が保たれていると判断できる。
- 教育活動に必要な人的・物的資源等に関する項目の肯定的な回答が低い。→教育課程について家庭や地域とも共有されるように努力する必要がある。また、人的・物的資源等を効果的に組み合わせしていく。（コロナ禍以降の人的・物的マップ再構築）。
- 授業時におけるICT機器の使用については、全国や県に比べると高くはない。

2 津久見市の学校質問調査の結果をふまえて

◇教科横断的に仕組む授業の推進

- ・生きて働く知識・技能を習得するために教科を関連付け、主体的な学びを核とした単元計画の設定

- ・「読む力」「説明する力」等を含めた「読解力」向上のための授業改善

◇児童生徒・学校・地域の実態等に応じた教育課程の編成・実施

- ・人的・物的資源等の効果的な活用（コロナ禍以降の人材マップ等の再構築）

- ・ICT機器の計画的な利用

◇家庭・地域との課題の共有，改善策の検討

- ・目標やビジョンを共有するための熟議の場（コミュニティースクール等）の設定